

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年2月9日

事業所名 NPO法人ハッピー 放課後等デイサービス事業所スクラム

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	3	0	活動スペースの分割や他施設の借用等。	曜日ごとに違うので、活動内容やメンバー等に応じて場所(プレイルーム・相談室・多目的室等及び外出等)を計画的に考慮する。
	2 職員の配置数は適切である	1	5	1	非常勤職員やボランティアの活用。	個別対応が不可欠な利用児の実態があるため、利用児の人数によっては難しさがある。職員の継続的な募集と非常勤職員及びボランティア等の活用を図っていく。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	4	施設出入口にスロープを設けている。	現在、肢体不自由の利用者はいないが、施設・予算面等考慮しつつ改善へ検討する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1	0	職員研修でPDCAサイクルについて研修を深めている。	課題設定や検証可能な評価等課題は残るが、アセスメントから課題抽出、目標設定、評価等へ向かう新書式が完成し、次年度より活用予定である。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0	保護者に分かりやすく、記入しやすい書式を作成している。	今年度より外部評価委員会を設置・実施した。今年度の実践の総括や職員保護者の評価アンケートなどを基に検討を加え、外部の評価委員に指導・助言をいただき、次年度に活かす予定である。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	3	1	お便りにて公表してきた。	今年度より、ホームページ及び保護者会にて公表・報告する予定で進めている。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4	2	外部評価委員会は実施していないが、業務改善には繋げてきた。	地域の代表者、保育園及び特別支援学校からそれぞれ1名ずつ3名の評価委員に来所していただき、外部評価委員会を実施した。結果を基に職員で共有・共通理解し、次年度へ活かす予定である。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	月に1度の法人全体研修と事業所研修を進めてきた。	心理士や特別支援学校職員、大学教授等を招へいし、幅広くまた、実践的な内容で研鑽を重ねている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0	職員研修・会議等で深めてきた。	年齢別に分けたアセスメントチェックリストや生活地図等を新たに作成し、実態とニーズの把握に基づいた計画に繋がるよう工夫していく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	1	k式発達検査やWISCなどの検査結果を分析してきた。	左記の検査に加え、年齢別のアセスメントチェックリストを活用していく予定である。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	0	一人が計画し、それをチームで検討・細案化している。	年間や学期、月等大まかな計画と利用児の具体的な取り組み内容と時期を考慮し職員研修で検討を加えていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	遊びの展開を尊重しながら職員間で検討を加えている。	上記に記したように、今後はより具体的な一人ひとりの計画に寄り添う計画を考えていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	3	0	休日・長期休暇など事前に計画立案し職員で検討している。	新たな個別支援計画プログラムにおいて、よりきめ細かな課題・目標設定に向かう予定である。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	0	毎日の職員朝会などを活用し、活動内容を検討している。	個別活動と集団活動が必要な状況をあらかじめ個別支援計画に挿入し職員・保護者で共有し、実践に繋げていく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	職員朝会及び打ち合わせ会で支援内容・役割分担等検討する。	今後も必ず打ち合わせをし、役割分担や注意・留意点等を協議・検討していく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3	0	活動中、終了後には打ち合わせをしているが、できない日もある。	当日中に振り返り・反省等が出来なかった場合を想定し、翌日の職員朝会には必ず振り返りを設けて行くようにした。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	分担を決め毎日行っている。	職員間で声を掛け合い、記入漏れや記入忘れがないように注意する。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1	0	定期的なモニタリングは必ず行っている。	施設長及び児発管による周知を徹底する。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6	1	0	日々の活動計画案作成に当たり配慮している。	日々の活動計画案に「基本活動の考え方」としてガイドラインを参考にした文言を入れている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	0	児発管をはじめ、担当者が参画している。	個々の子ども状況や実態・ニーズ等をまとめた書式を新たに作成し、担当者等が都合が悪い場合でも他の職員が参画できるよう情報の共有を図る。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	1	0	適宜双方の担当者間で適切に行っている。	学校とのより密接な連携に向けて、授業参観後の協議を設定するなどして、より個々の実態に応じて学校⇔家庭⇔事業所間の連携・指導・支援を深めていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	3	2	医ケア児は在籍していない。 (無回答 1)	医ケア児の受け入れは施設・職員状況から考えると難しいと考えるが、受け入れの際はしっかりと環境等を整えていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2	2	法人内の児童発達支援事業所及び他所とも連携している。	どこと、どのような話し合いに参加したなど、必ず全職員の前で報告し、より密な情報共有を図っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	4	0	法人内事業所や地域の公園等とも連携してきた。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	3	職員研修等で講師を招へいし、指導・助言等をいただいている。	今後も障害特性や課題、ニーズ等に応じて各専門機関と連携していく予定である。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	3	1	利用児の友人や地域の公園等での活動で交流してきた。	公園での活動や地域との交流など各種行事も活用しながら取り組んでいく予定である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	3	4	県・市などの公文等には留意している。	今後呼びかけがあった際には積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	0	お迎えの際や定期的な面談等を活用している。	より計画的・意識的に保護者との面談についてその内容の工夫やその後の発展的面談計画をもち臨んでいく予定である。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	3	4	保護者からの相談等に対応してきた。	専門機関から講師を招へいし、保護者向けの講話を設定する予定であり、事業所のお便りにペアトレの連載を始めている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	2	0	年度当初に保護者向けのオリエンテーションをはじめ、適宜行っている。	オリエンテーションにおける説明をより分かりやすく伝えるように工夫したり、一人ひとりの保護者に応じた対応を考慮していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	3	0	相談に応じることはしているが、助言や支援に満足しているかは定かでない。	子育てや障害特性に応じた関わり方、行動の捉え方・変容など、今後も職員研修を深め、また、保護者向けの講話等も計画していきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	0	保護者主催の行事の立案や保護者会などの開催等、支援している。	今後も積極的に支援していく計画である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1	0	職員朝会等で報告・共有し、苦情解決に関する記録を作成している。	今後も苦情解決に関する取り組みを継続していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	毎月1回、2種類のお便りを発行している。	法人のホームページをより活用していく予定である。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0	個人情報に関する承諾書を全員に確認している。	次年度より承諾書の内容にホームページでの掲載に関する文言を挿入していく予定である。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1	0	個々に応じた対応をしてきている。	コミュニケーションに関するアセスメントをより綿密に行い、伝わり方や伝え方等個々に応じた配慮を行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	6	1	0	もちつき大会を実施している。	地域との繋がりを意識し、民生委員・各種老人会の方々との連携は深まっている。夏・秋まつりなど今後も考えていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3	0	マニュアルは策定しているが、保護者への周知に工夫が必要。(無回答1)	各種避難訓練を実施した際や感染症が流行った場合等にお便りや連絡帳などを活用し周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2	0	消防署と連携し行っている。	今後も消防署や警察署等、関係機関との連携を深めながら取り組んでいきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	法人研修会で機会を設け取り組んでいる。	障害児・者への虐待防止や権利擁護について、今後も県主催の研修参加と報告を必ず実施していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	3	0	身体拘束の事例はないが、組織的に取り組んでいる。	障害者虐待防止・権利擁護についての研修で理解を深め、今後も組織的に取り組んでいく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	1	個々のアレルギーの調査と対応はできている。	今後もアレルギー反応についての調査は継続し、全職員の周知の徹底ともしもの場合の対応についても取り組んでいきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	1	事例集はないが、報告書は作成し、情報の共有はできている。	今後も職員朝会・会議にて、報告し今後の取り組みを確認していくことと、これまでの事例を再度報告するなどして事故防止に繋げていく。